地域医療機関さまと亀田総合病院をつなぐ情報誌

かめだより

第58号
2017年10月発行

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室　〒296-8602 千葉県鴨川市東町929　TEL：04-7099-1261（内線7156）
発行責任者：亀田信介　編集責任者：唐鎌房子

index

P2 …がん拠点病院推進センターより
AoLaniプロジェクトシリーズ
P3 …亀田総合病院内各部署のご紹介
治験管理センター
P4 … 地域医療機関さまより
P5 … 当院診療科より
P6 … リハビリテーションの挑戦!
P7 …スタッフひろば
マイブーム
P8 …トピックス 勉強会・
研修会スケジュール

がん拠点病院推進センターより

「乳がん看護認定看護師の関わり」

亀田クリニック 乳がん看護認定看護師　松﨑 晃子

現在，日本における乳がん患者は年々増加傾向にあります。この中で，当院における乳腺科を受診される患者支援について，乳がん看護認定看護師としての関わりについて報告します。

患者が診察を希望する際に最初に訪れる場所は外来です。外来では最初に看護師が問診票を視て症状の確認をします。症状の確認は，訴えは勿論，患者の表情や言動から思いや不安を感じ取るようにします。患者の訴えをよく聴き，これからの診察や検査について少しでも不安が軽減できるように支援するのは看護師の役割として大切です。また，要精査の患者は外来で乳がんと診断をつけることを目的とした組織診を実施します。看護師は，検査の手順説明，検査時の環境を整え，患者の苦痛が最小限にできるよう介助をします。この時期の患者は結果がでるまでは不安な気持ちを認めます。看護師は患者の様子から無事に帰宅できるかの確認，難しい場合は休む部屋を提供するなど，患者が安全に帰宅できる様に支援します。また，次回の結果説明時は家族などのサポートの有無を確認しながら，一人ではなく家族と一緒に来院して頂き話を聞くように患者に説明します。

検査結果は，約1週間後に説明され，告知後の患者は医師の言葉を理解するのはかなり難しい場合が多いです。中には冷静に聞き，内容を整理できる方もいるが，私達看護師は告知を受けた患者の気持ちに寄り添う支援を行っています。

周術期の支援は，患者の乳房に対する思いは個人差が大きく，また入院期間や術後の治療内容，術式決定，経済面など多岐にわたります。最近はインターネット社会により情報があふれ過ぎて混乱している患者も多くいます。看護師は患者の話をよく聴き，患者の情報を整理し過不足のない情報提供を行う必要があります。術式が決定したら，外来でなるべく入院生活がイメージできるようにオリエンテーションを実施し，少しでも不安が軽減できるように支援します。

手術が終了し退院後は，今後の治療について説明しますが，放射線療法，内分泌療法，化学療法，患者により治療方針は異なります。今後の治療に向けて，治療計画や副作用についての説明，治療開始後は，副作用症状の確認など継続した支援に努めます。

当院における乳腺科外来を受診される患者は，定期検診・異常の自覚・セカンドオピニオン・精査・手術前後・化学療法・内分泌療法・定期フォローの方など，来院される目的は様々です。看護師は，外来受診される患者の状況に合わせた個別の看護ケア，そして，患者の訴え・サインを見逃さないように寄り添いながら日々の支援に努めます。

※乳がん看護分野に期待される能力については，乳がんの集学的治療および治療に伴う副作用に対する専門的ケアを計画・実施できる等の7項目が日本看護協会できめられています。

～ 院内ネットワークから地域ネットワークへ ～

地域医療連携と AoLani（アオラニ）プロジェクト

シリーズ-14：AoLani とスマートフォン

鉄蕉会 CIO　中後　淳

シリーズ-13ではAoLaniとセキュリティについてお話ししました。今回はAoLaniとスマートフォンの活用についてお話しします。

亀田メディカルセンターでは一昨年から患者さまが使用できるWi-Fiを整備しました。これはスマートフォンの普及を考慮しての判断です。20年前はまだパソコンのある家庭も少なく携帯電話が普及し始めたころで，インターネット環境も整っていませんでした。10年前になるとパソコンもインターネットも当たり前になりましたが，スマートフォンはまだ存在しません。スマートフォンが日本で最初に発売されたのは2008年です。10年ひと昔，現在はスマートフォンが主流になり，片時も手放せない人までいるようです。また中国など海外でのスマートフォンの活用は想像以上であり，日常の買い物やタクシーを呼ぶのも支払いもスマートフォン，会話・チャットや音楽・映像までなんでもスマートフォンで完結するのが当たり前になっています。

日本でのスマートフォンの活用は日常生活でもそうですが，医療機関での活用は，規制の問題などがあり，大きく後

亀田総合病院内各部署のご紹介

メディカルレポート

治験管理センターの紹介

主任 寺田浩美・センター長 舟越亮寛

《治験管理センター》

当院の治験管理センター（以下、センター）は、亀田総合病院・亀田クリニックで行われているすべての治験に関わっています。

新しい薬・医療機器の開発には人を対象として、効き目（有効性）や副作用（安全性）を調べなければなりません。人での有効性や安全性について調べることを「臨床試験」と言いますが、国（厚生労働省）から医薬品・医療機器として承認を得るために患者さまを対象に行う臨床試験のことを特に「治験」と呼んでいます。治験には通常の治療に加えて、研究的な側面も伴います。そのため、治験実施にあたり、治験に参加する方の人権や安全性、プライバシーを守るために厳しいルール*が定められています。

*薬機法（略称）：医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
*厚生労働省が定める「医薬品の臨床試験の実施の基準」省令

《GCP：Good Clinical Practice》

メンバー：センター長（薬剤管理部長兼務）、CRC４名（看護師・薬剤師各２名）、事務員１名

治験が安全に、科学的に、また倫理的に適切に行われるように、GCPでは、治験実施医療機関に治験責任医師を置き、治験実施の責任を明確にすると共に治験に関連するスタッフの責任を明確にして、治験を医療チームとして実施することになっています。治験責任医師の責務は多岐にわたりその責任も重く、治験を適正に実施するためには、治験責任医師を支援しながら全体を調整する専門のスタッフとしてCRCが協力しています。

CRCはClinical research coordinatorの略として呼ばれています。治験コーディネーターや臨床研究コーディネーターと呼ばれることもあります。治験に参加された患者さまのケアをしつつ、企業から受託した治験が院内でスムーズに進むように、医師、薬剤師、看護師、検査技師、医事スタッフ等との治験関連業務をトータルコーディネートするのがCRCの主な仕事です。

センターは治験事務局、治験審査委員会事務局も兼ねています。そのため企業との契約や諸手続き、委員会開催の準備、監査の受け入れ、治験を円滑に行うために治験関連部署連絡会の開催をメンバー全員で協力しながら行っています。2017年度は前年度からの継続治験とあわせて29件の治験が実施されています。実施診療科は血液腫瘍内科、呼吸器内科、循環器内科、乳腺科、糖尿病内分泌内科など12科です。

センターでは、治験に参加された患者さまを対象にアンケートを実施しています。その結果からは、治験に参加することにより、来院や検査が多くなるなど生じる負担もありますが、約８割の方が治験に対して良い印象をもっています。患者さまが安心して治験に参加できるように、支援業務のさらなる充実を図ること、そして啓蒙活動を行い治験への関心を高めていくことが重要であり、私たち医療スタッフ全員が感謝の気持ちを持って関わることが大切であると考えます。

私たちセンターのスタッフは、新薬開発の一端を担い、新しい薬を待ち望む患者さまに貢献できる大事な役割だと思い、業務に取り組んでいます。

今後とも、関係者の皆さまには、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

れをとっている状況にあります。AoLaniもまずはパソコン版の開発を進めていますが，もちろん将来的なスマートフォンやタブレット端末の活用を意識しています。10年後にはまだ活用が始まったばかりのスマートフォンの活用も，なくてはならないものになっていると想定して，スマートフォンで患者さまも医療従事者もすべての手続きが行えるような構想を膨らませているところです。

予約から受付，診察や検査での各手続き，会計・処方箋発行までスマートフォンで完結する姿を目指したいと考えています。それに加え日々の健康管理も患者さまと医療従事者がスマートフォンを通して情報を共有し，更にその情報に人工知能（AI）によるアドバイスなどが加わるのが当たり前になっていくと思います。

亀田グループでは今までの携帯電話（ガラケー）をスマートフォン（iPhone）に切り替えながら導入台数を徐々に増やしています。院内電話（PHS）やナースコールをスマートフォンに置き換える計画を進めていますが，患者さまの利便性向上の取り組みはこれからになります。時代の変化に敏感に，そして今までの紙やアナログの良さも大切に，多くの人に便利で安心な医療を提供し続けられるように取り組みを進めたいと思います。

次回は，AoLaniと遠隔診療についてお話ししたいと思います。

地域医療機関さまより

医療法人社団宏和会 エビハラ病院
経営本部長兼看護部長　座間 直樹

病院外観

地域とともにあるエビハラグループとは

私どもエビハラグループは，エビハラ病院，ハートフル鴨川（有料老人ホーム），嶺岡園（障害者支援施設）の医療・介護・福祉の三位一体による「unity of diversity」（多様性の統合）の基本理念のもと，地域での活動を行っております。

当院は，長期療養の患者さまを対象に「終末」を「週末」に換え，楽しく，そして少しでもその人がその人らしい人生が送れるよう日々スタッフは努力しています。

終末期医療と聞きますと暗いイメージをお持ちになる方も多くいると思います。当院では，人生の終末の一時（ひととき）を穏やかにそして「笑顔」となる時間が少しでも増えることを目指し，患者さま１人１人と向き合い，何を望み，私達に何が出来るか日々葛藤しながら関わりを持たせて頂いています。

例えば娘の結婚式に出席できない患者さまには，病院の一室を貸し切り結婚式を挙げたり，家族のように可愛がっているペットに会える場所と時間を提供したり，また好物のお寿司を一緒に食べに行ったりと病院という常識にこだわらず家族の協力のもと様々なことに取り組ませて頂いています。

現在では「緩和ケア」の勉強会をはじめ「食」へのこだわりなど生活の質を高めると共に，感染対策や安全管理・接遇など本人だけでなく家族や面会に来る皆さまも安心し，笑顔になれる施設づくりを心掛けています。

在宅部門でも人員を増員し通所リハビリテーションや訪問看護・介護・リハビリテーションと地域のニーズにあったサービスが提供出来るよう努力しています。

また地域において「エビハラグループの役割は何か?」を常に考えています。

地域の病院や医療施設と連携し，その人に必要な医療が迅速且つ適切に提供出来るためのシステム作りが必要であると感じています。その為に私達エビハラグループでは，急性期を脱し，療養が必要な患者さまに対しては，円滑に入院できるような体制づくりの強化や情報共有に努めています。

地域の各施設がそれぞれの役割を意識することで，必要な時必要な医療が受けられる安心した地域になると私達は考えています。

私どもグループは，まだまだ発展途上の段階です。常に「何を求められているのか?」「私達に何が出来るか?」を考え「変化」や「進化」を恐れず挑戦し続けたいと考えています。

是非興味・関心がある方は，嶺岡の丘にあるエビハラグループに足を運び，どのようなグループか見て頂けたらと思います。

当院診療科より

婦人科 部長　大塚 伊佐夫

産婦人科医療は4本の柱，すなわち「周産期」「腫瘍」「生殖」「女性のヘルスケア」からなっていますが，このうち腫瘍分野は高齢化が進行する現代社会においてより大きなウェイトを占めるようになっています。がんは基本的に高齢者の疾患であり，高齢者が増加すればがん患者も増加するからです。

当院での婦人科悪性腫瘍の治療例数は東京慈恵会医科大学附属柏病院，千葉大学医学部附属病院，千葉県がんセンターについで千葉県内で４番目で，年間200例以上の新規症例を治療しており，診療圏は安房地区だけでなく，君津や長生夷隅地区まで広がっています。

治療については，その患者さまにとって最善となるような治療を行うように努めており，必要に応じ放射線科，腫瘍内科，外科系各科と連携して治療を進めています。現在もっとも多い婦人科腫瘍である子宮体がんでは，手術時にリンパ節を摘出し転移の有無を評価することで，術後治療（抗がん剤治療や放射線治療）を行う症例をできるだけ限定するようにしています。子宮頸がんでは，手術（広汎子宮全摘出術）の際に術後の排尿障害を予防する神経温存術式を施行しています。また，手術と放射線治療が同様に効果がある扁平上皮がんでは，併存症の状態や年齢を考慮して治療法を選択しています。卵巣がんでは進行例が多くみられますが，腹水貯留などで手術リスクが高いと考えられる例では，術前化学療法で状態を改善した後に手術を行っています。また，近年増加している，妊娠希望の若年がん患者さまに対しては，生殖医療科と連携しながらできるだけ希望に添った治療を提供するように努力しています。

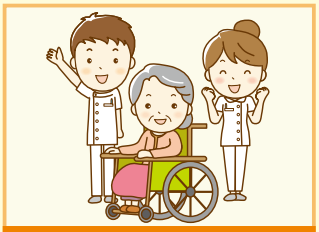
遺伝子検査については，乳腺科と共同で遺伝性乳がん卵巣がん症候群が疑われる方に対しカウンセリングを行っており，変異のある方では予防的卵巣卵管切除も施行しています。病理科とは珍しい症例を中心にカンファレンスを定期的に行っており，放射線科とも画像読影だけでなくCTガイド下生検などで協働しています。最近では治療の早い段階から緩和ケア科と連携する症例も増えています。

地域特有の問題のひとつに，高齢症例の増加があります。ご存知のとおり安房地区では高齢化がすすんでおり，様々な問題を抱えた患者さま（高血圧や糖尿病，心疾患などの併存症や，認知症，独居など）を治療する機会が増えています。こうした方では，ガイドラインに沿った治療が難しく，治療のための頻回の通院が難しいこともあります。社会的サポートの不十分な症例では予後が悪いことが知られており，われわれ医療従事者だけでは解決が困難な問題です。

若年者でHPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種がほとんど行われなくなっていることも非常に大きな問題です。40歳以下のCIN（子宮頸がんの前がん病変）の当科での治療例数は2002年にはわずか６例だったのが，2016年には34例に増加しています（当院診療圏在住症例）。日本産科婦人科学会でもHPVワクチン接種の積極的勧奨再開を求める声明を数度にわたりだしており，WHO（世界保健機関）も「若い女性が本来予防し得るHPV関連がんのリスクにさらされている」日本の状況を危惧しています。日本だけが先進国で唯一子宮頸がんが蔓延する国にならないように医療界が根気強く情報を発信していく必要があります。

がんが進行・再発し積極的治療ができなくなった患者さまでは，ご自宅あるいはご自宅そばでご家族が通いやすい施設への転院が望ましい場合が多く，地域の医療機関さまにその後の管理をお願いすることが多々あるかと思います。今後も地域医療機関さまと密接に連携を保ちながら，患者さまやその家族，医療費を負担する社会，および医療を提供する医療従事者のそれぞれにとって最善となる診療を行っていきたいと思います。

リハビリテーションの挑戦！



第６回

「リエゾンチームによる関わり」

リハビリテーション室　作業療法士　石川　朋奈

【リエゾンとは?】

リエゾンという言葉を皆様ご存じでしょうか?

リエゾン（仏:liaison）とは，西洋料理ではソースのつなぎとされていますが，結びつけるという意味があり部門の「連携・連絡」という橋渡しのような表現で用いられます。

医療現場ではコンサルテーション・リエゾン精神医学（一般的には精神科リエゾン）を略して「リエゾン」と呼ぶことが多いです。

【リエゾンチームの関わり】

総合病院の治療現場では，以下のような精神症状を有するケースに遭遇する機会が多くあります。

①	精神疾患のある方が身体的症状を呈するケース
②	身体疾患による精神症状を呈するケース
③	向精神薬の副作用やアルコールによる問題のあるケース
④	パーソナリティ問題からのトラブルが頻回に起こるケース

これらのケースにおいては，精神症状や問題が，身体疾患の治療を妨げる場合があり，精神症状への対応も求められます。その際，精神科コンサルトでの患者さまへの精神科医の専門的な治療はもちろんですが，患者さまを支える家族や身体科の病棟スタッフなど，治療環境への介入が必要になることも多くあります。

リエゾンチームは，精神科医師・精神科看護師・臨床心理士・精神保健福祉士を中心に，薬剤師・チャプレン・作業療法士も加わり多職種で構成されています。そのため，**患者さまへの薬物療法のみならず精神症状の評価や心理療法・身体的介入，病棟スタッフへの精神症状への理解が深まることを目的とした看護・ケアに関する相談と教育，家族へのサポート，退院後環境への社会的支援など多職種によるチームアプローチによって人と人をつなぐ役割**をしています。

【リハビリテーションとして】

リハビリテーション場面において作業療法士は身体・精神両面のつながりを考えアプローチできる専門職です。

高齢化に伴い精神疾患を合併する患者さまが増えていること，リハビリテーションが必要な身体疾患を有する入院患者さまはうつ病（抑うつ），適応障害，せん妄，不眠などの精神症状の合併率が40%とも言われていることもあり，身体科においても，精神科においても，これまで以上に身体・精神両面のアプローチが求められる機会が増えています。リエゾンチームに積極的に関わり専門領域を越えた連携をよりいっそう促進させる必要があると考えています。

この情報誌「かめだより」の役割のように「つなぐ」存在として，当院ではリエゾンチームによる関わりを続けます。

スタッフひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容
・氏名
①部署 / 職種
②好きな丼もの
③休日の過ごし方

草薙 洋
①診療部 消化器外科
医師
②天丼
③畑仕事

蔵本 浩一
①診療部 緩和ケア科
医師
②なめろう丼
③基本, 外出

丸山 祝子
①看護管理部
助産師
②ネギトロ丼
③お買い物

杉田 登子
①地域医療連携室
看護師
②海鮮丼
③ただひたすらボー!!
っとしてます

入月 修司
①看護管理部
看護師
②親子丼
③庭の手入れ

打野 弘子
①総合相談室
看護師
②海鮮丼
③その時の気分
次第

吉野 有美子
①総合相談室
看護師
②親子丼
③掃除･洗濯･
買い物

安室 修
①薬剤部
薬剤師
②親子丼
③家族満足度の
向上を図る

鎌田 喜子
①総合相談室
MSW
②海鮮丼･ かつ丼
③外出(遊びと研修)3/4
ダラーと休息1/4

児玉 照光
①総合相談室
MSW
②海鮮丼
③掃除･ 買い物

新田 静江
①亀田医療大学
老年・在宅看護
学領域
教員（看護師）
②海鮮丼
③畑･ 庭仕事

栗栖 千幸
①亀田医療大学
教員（看護師）
②海鮮丼
③読書

中村 雅代
①地域医療連携室
事務
②中華丼
③洗濯･ 掃除･ 買
い物

林 裕子
①地域医療連携室
事務
②うにいくら丼
③映画が観たいが
洗濯･ 掃除

吉野 希望
①地域医療連携室
事務
②麻婆丼
③スポーツ観戦

番場 陽平
①情報戦略室
事務
②かつ丼
③海か山

大橋 洋子
①地域医療連携室
事務
②天丼
③子供と遊ぶ
掃除･洗濯

黒川 亜純
①地域医療連携室
事務
②ネギトロ丼
③掃除･ お菓子作り

唐鎌 房子
①地域医療連携室
事務
②うな丼
③掃除･ 洗濯･
作り置惣菜作り･
習い事

亀田総合病院スタッフの
マイブーム

「特にアマニ油」

以前は油と言えば『サラダオイル』ばかり使っていたなぁと思います。５年位前からは色んな油の使い分けを楽しんでいます。油と言えば太る原因のイメージが強いですが，むしろ良い油は毎日摂り入れるべきだという考えが浸透してきています。中でも体の味方になる油といえば，痩せてきれいになると人気の『ココナッツオイル』をはじめ，体内のサビの元となる酸化が起きにくい『オリーブオイル』，香りがよくて健康・美容に対して有効なリノール酸・リノレン酸が豊富で血液中のコレステロール値を下げてくれ動脈硬化予防に期待出来る『ごま油』はダイエットにも役立ちます。『エゴマ油』は，認知症に効果があるといわれているαリノレン酸の含有量はオリーブオイルの６倍以上もあります。熱に弱いのでエゴマ油大さじ１杯を卵かけご飯や味噌汁に掛けるだけで効果が発揮されるので摂取しやすいです。

そして私の一押しとして，脳の機能を向上させるオメガ３系の含有量が豊富な『アマニ油』です。夜ヨーグルトに垂らして戴くのが日課となっています。便秘改善効果にもなり，腸内の炎症を抑えて善玉菌を増やし，血液の流れを良くして腸内環境を整える働きがあります。そして，仕事に家事に忙しく頑張っている女性にとってホルモンバランスの乱れを改善してくれる役割も果たしてくれアンチエイジング効果アップ油といえます。

弱点として，丁重に扱わないと悪い油になってしまいます。酸化しやすいし，光と高温に弱いので，開封後は冷蔵庫保管で１ヶ月以内に使い終わる様にしています。

老いないオイル

トピックス

勉強会・研修会スケジュール

勉強会・研修会の参加ご希望の方はそれぞれの締切までにお申し込み下さい。

1. がん看護勉強会9回シリーズ

日程／テーマ:

第1回～4回終了しました。

第5回　10月17日(火)　放射線療法と看護
※講演会のチラシ参照

第6回　11月21日(火)　手術療法と看護

第7回　12月19日(火)　スピリチュアルケア

第8回　1月16日(火)　緩和ケア

第9回　2月20日(火)
オンコロジック・エマージェンシー

会場:亀田総合病院Ｂ棟7階研修室

2. 摂食・嚥下障害勉強会

安房地域

日時:9月30日(土)13:30～16:30

会場:安房医療福祉専門学校小池ホール

▲夷隅地域　8月26日(土)開催　参加者:16名

3. 認知症勉強会
認知症の人への関わりを知る

安房地域

日時:10月28日(土)・11月11日(土)
2日間とも13:30～17:30

会場:安房地域医療センター2階研修室

夷隅地域

日時:11月18日(土)・12月2日(土)
2日間とも13:30～17:30

会場:いすみ医療センター2階研修室

4. ELNEC－Jちばコアカリキュラム
看護教育プログラム

安房地域

日時:10月21日(土)・22日(日)
2日間とも9:00～16:30

会場:エビハラ病院6階大会議室

夷隅地域

日時:11月25日(土)・12月9日(土)
2日間とも9:00～16:30

会場:いすみ医療センター2階研修室

5. 緩和ケア研修会

日時:10月7日(土)・8日(日)
2日間とも9:00～17:30

会場:亀田総合病院Ｋタワー13階ホライゾンホール

6. マインドフルネス勉強会3回シリーズ

第1回終了しました。

日時:10月29日(日)・12月10日(日)
2日間とも9:00～16:00

会場:亀田総合病院Ｋタワー13階ホライゾンホール

▲7月23日(日)開催　参加者:21名

7. がん就労支援講演会

日時:2018年1月20日(土)13:30～16:00

会場:亀田総合病院Ｋタワー13階ホライゾンホール

＊詳細とお申し込みにつきましては,チラシをご確認下さいますようお願いいたします。

＊尚,安房地域医療センター及びいすみ医療センターで行っておりました,18:00～の勉強会は計画予定がございませんのでご了承下さい。